

【参考】症例

<症例1>

| | |
|---------------|---------------|
| ○施設属性 | 診療所（歯科、小児歯科） |
| ・その他施設基準 | 在宅療養支援歯科診療所 |
| ・ユニット台数 | 3台 |
| ○患者属性 | 20代・女性 |
| ・主たる歯科疾患名 | 歯周疾患（歯肉炎・歯周炎） |
| ・歯科以外の疾患 | あり |
| ○何をしているとき | その他（歯石除去後） |
| ○患者がどうなった | 気分が悪くなった |
| ○具体的な対応内容 | 院内施設での安静 |
| ○緊急時対応後の患者の状態 | 回復 |

<症例2>

| | |
|---------------|--------------------------------|
| ○施設属性 | 病院（歯科口腔外科） |
| ・その他施設基準 | 地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科治療総合医療管理料 |
| ・ユニット台数 | 7台 |
| ○患者属性 | 30代・男性 |
| ・主たる歯科疾患名 | その他（埋伏歯） |
| ・歯科以外の疾患 | あり |
| ○何をしているとき | 歯科麻酔時 |
| ○患者がどうなった | 気分が悪くなった 血圧が低下した |
| ○具体的な対応内容 | 医療機器を使用した対応（酸素ポンプ・マスク、血圧計） |
| ○緊急時対応後の患者の状態 | 回復 |

<症例3>

| | |
|---------------|--|
| ○施設属性 | 歯科大学もしくは歯学部附属病院 （歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科） |
| ・その他施設基準 | 地域歯科診療支援病院歯科初診料 |
| ・ユニット台数 | 161～180台 |
| ○患者属性 | 60代・男性 |
| ・主たる歯科疾患名 | 歯の欠損 |
| ・歯科以外の疾患 | なし |
| ○何をしているとき | 歯牙の切削以外の歯冠修復・欠損補綴処置（印象、装着等）時 |
| ○患者がどうなった | 誤嚥・誤飲した |
| ○具体的な対応内容 | 連携施設（併設医科）へ搬送 その他（胃部レントゲン撮影） |
| ○緊急時対応後の患者の状態 | 回復 |

<症例 4>

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| ○施設属性 | 診療所（歯科） |
| ・その他施設基準 | 歯科治療総合医療管理料 |
| ・ユニット台数 | 4台 |
| ○患者属性 | 70代・女性 |
| ・主たる歯科疾患名 | 歯周疾患（歯肉炎・歯周炎） |
| ・歯科以外の疾患 | あり |
| ○何をしているとき | 投薬（歯科麻酔を除く）時 |
| ○患者がどうなった | 気分が悪くなった 呼吸困難（過呼吸を含む）になった |
| ○具体的な対応内容 | 医療機器を使用した対応（酸素ボンベ・マスク、血圧計） 連携施設へ搬送 |
| ○緊急時対応後の患者の状態 | 回復 |

<症例 5>

| | |
|---------------|--|
| ○施設属性 | 診療所（歯科、小児歯科） |
| ・その他施設基準 | 歯科治療総合医療管理料 |
| ・ユニット台数 | 5台 |
| ○患者属性 | 90代・男性 |
| ・主たる歯科疾患名 | 歯の欠損 |
| ・歯科以外の疾患 | なし |
| ○何をしているとき | その他（待合室で待っているとき） |
| ○患者がどうなった | 意識を失った 心肺停止となった |
| ○具体的な対応内容 | 医療機器を使用した対応（AED、酸素ボンベ・マスク） 連携施設へ搬送 その他（救急蘇生術の実施） |
| ○緊急時対応後の患者の状態 | 入院（のち回復） |

⑦ 歯科外来診療環境体制加算に関する意見等について（自由記述形式）

1) 安全・安心な歯科外来診療を提供する上で必要だと思うものや課題

- ・ 本来、歯科医療機関が歯科外来診療環境体制加算にある医療機器や設備を備えるのは当たり前のこと。
- ・ 並列する 3、4 台のユニットを飛び回る診療をしないと収益が確保できないため、感染症対策をするコスト・時間を確保することが難しい。
- ・ 感染症有病患者の使用するユニットや器具は、通常の滅菌消毒と異なり手間がかかる。当然、ディスポーザブルの器具も増えるため、感染症患者対象の加算があってもよいのではないか。
- ・ 診療グローブの着用とグローブのディスポーザブルの義務化。
- ・ 歯科医療の安全を確保するためのコストを理解し、歯科外来診療環境体制加算の評価の引き上げを行って欲しい。
- ・ 歯科外来診療環境体制加算の整備だけではなく、実際の緊急時に十分な対応が行えるよう歯科医師とスタッフの意識を同じレベルで保つ必要がある。
- ・ 緊急時の対応等には、医療機器や設備の整備だけでなく、歯科医師の技術や知識が必要であるが、研修を受ける場が少ない。研修をさらに充実すべき。
- ・ 安心・安全な歯科医療を行うためには、経験的に内科や外科との連携は必要である。

／等

2) 歯科外来診療環境体制加算に関する意見や課題等について

- ・ 歯科外来診療環境体制加算の評価が低い。
- ・ 現在の診療報酬上の点数では、機器や設備の維持を行う上でぎりぎりの点数であるが、点数のことよりも、高齢者の患者や合併症を有する患者が増加している中、このシステムは歯科医療の現場に必要であり、歯科治療に役立っている。
- ・ 歯科外来診療環境体制加算によって職員の安全な歯科医療に対する意識が高まり、安心感をもって歯科治療を行うことは、患者の利益にもなるのではないか。
- ・ 歯科外来診療環境体制加算の導入により、必要な医療機器を整備したが、歯科医療機関側も患者側も満足し、安全な歯科医療に対する知識が高まった。
- ・ 歯科外来診療環境体制加算の診療報酬上の評価が継続されることを望む。

／等

(3) 患者調査の結果概要

【調査対象等】

○患者調査

調査対象：「施設調査」の対象施設に調査日に来院した初診患者で、歯科外来診療環境体制加算を算定した患者。ただし、1施設につき最大4名の患者を対象とした。

回答数：1,570人

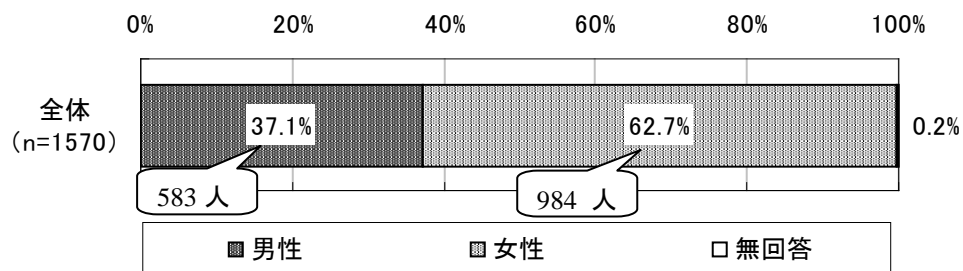
回答者：患者本人または家族

調査方法：調査対象施設を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

① 回答者の属性

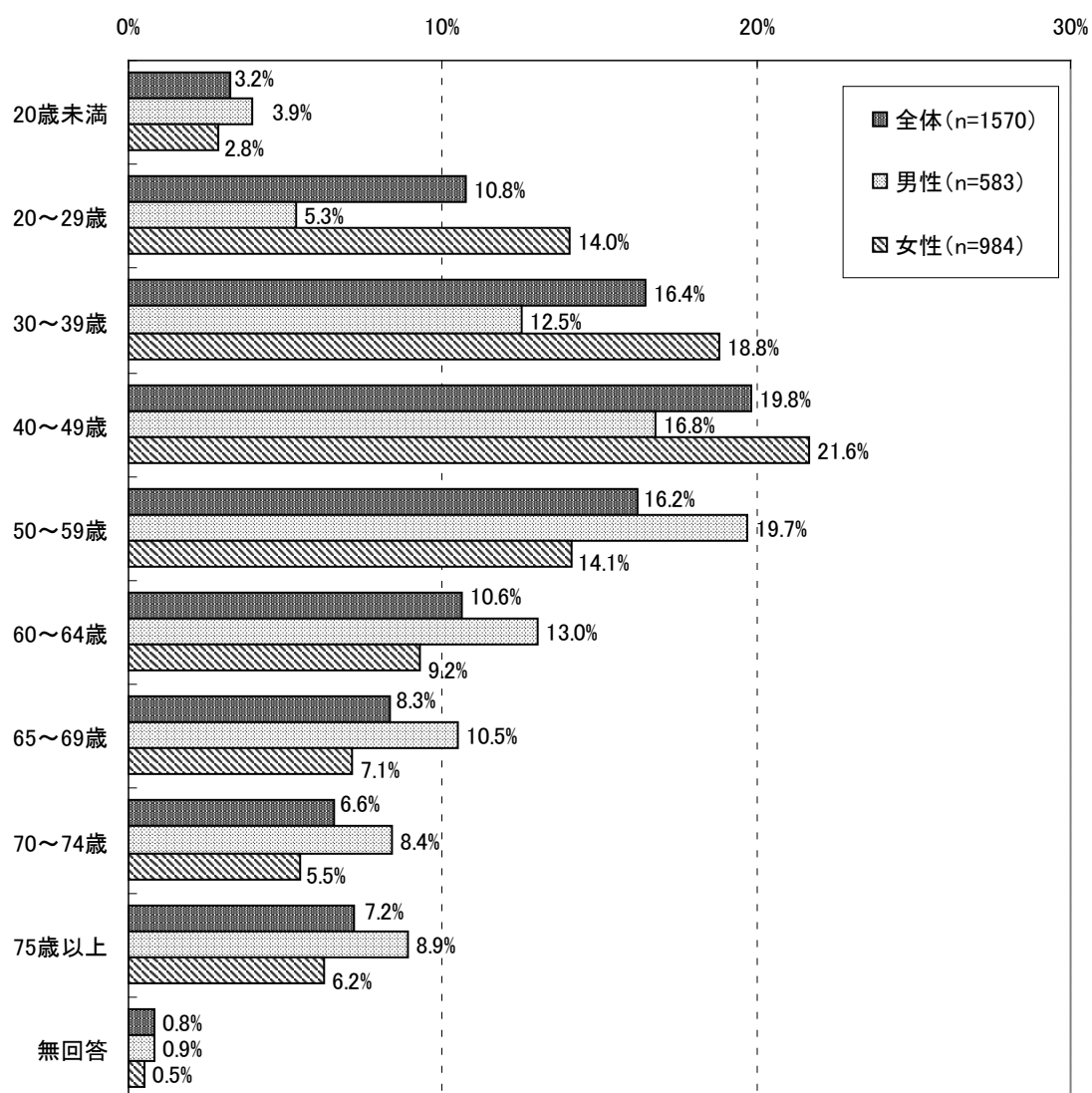
1) 性別

図表 73 性別



2) 年齢

図表 74 男女別 年齢分布



図表 75 平均年齢

(単位：歳)

| | 平均値 | 標準偏差 | 最大値 | 最小値 | 中央値 |
|-----|------|------|------|-----|------|
| 全 体 | 49.4 | 17.9 | 88.0 | 1.0 | 49.0 |
| 男 性 | 52.9 | 17.2 | 87.0 | 6.0 | 55.0 |
| 女 性 | 47.3 | 17.2 | 88.0 | 1.0 | 45.0 |